

第1回 砂蘭部川河床低下対策検討委員会

『砂蘭部川ニュースレター No.1』

(平成25年3月25日開催)



渡島総合振興局
函館建設管理部

1/4

平成25年3月25日に第1回砂蘭部川河床低下対策委員会が開催され、砂蘭部川の河床低下対策について議論されました。

本委員会は、砂蘭部川の河床低下対策を実施するための計画について、提言を得ることを目的として検討委員会が設立されました。

日時：平成25年3月25日 13:00～16:30
場所：八雲町総合福祉保健施設シルバープラザ

委員名簿 (五十音順) (敬称略)

赤井 睦美、小栗 隆、日野 昭、三澤 公雄、
牛木 信夫、小川 勝士、稗田 一俊、茂木 紳一、
帰山 雅秀、柳井 清治、渡邊 康玄



1. 委員紹介

委員は、各分野の専門委員と、砂蘭部川に関係する地域・団体の代表者として選出しました。初めての委員会となることから、委員を紹介し、一言ずつご挨拶をいただきました。

2. 規約(案)について

●：委員からの意見等 (事)：事務局からの回答等

砂蘭部川河床低下対策委員の規約(案)について承認されました。規約(案)については以下の意見が出されました。

- 国営林の治山ダムが上流にあるのにその関係者が入っていないというのは不備があるのではないか。
- (事)今回は、砂蘭部川の現状について河川管理者である北海道がどのような対策をとるべきか提言を得ることを目的に本委員会を設立させていただきました。このため、森林管理署等はメンバーとしては入っていません。規約(案)の第4条「検討委員会は、必要があると認めるとき、委員以外の者の出席を求め、説明及び意見を聞くことができる。」により、必要性が議論されたときに必要に応じて参加していただくという方法もあります。
- 委員の任期について、計画を提言したときで終わらずに、計画が実施された後も確認できるような体制をとっていただきたい。
- (事)計画が詳細になった時点で、もとの委員の皆様も集めての工事説明会をするなど、ご要望があれば臨機に対応したいと思いますが、あくまでも委員会としては、提言をいただいたときまでと考えております。

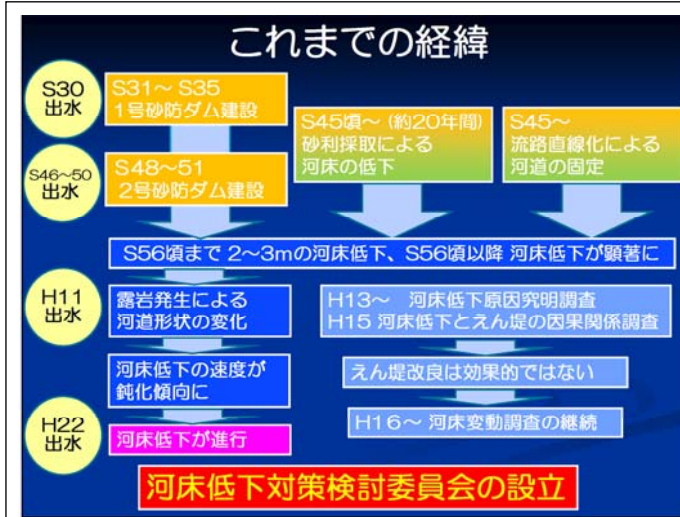
3. 委員長の選出

委員長には、遊楽部ファンクラブの茂木紳一委員が選出されました。
また、委員長代理には、柳井清治委員が選出されました。

4. 意見交換

砂蘭部川について、これまでの経緯と砂蘭部川の現状を事務局から説明しました。そのあと、砂蘭部川の河床低下に対する感想や意見が述べられました。その内容は以下の通りです。

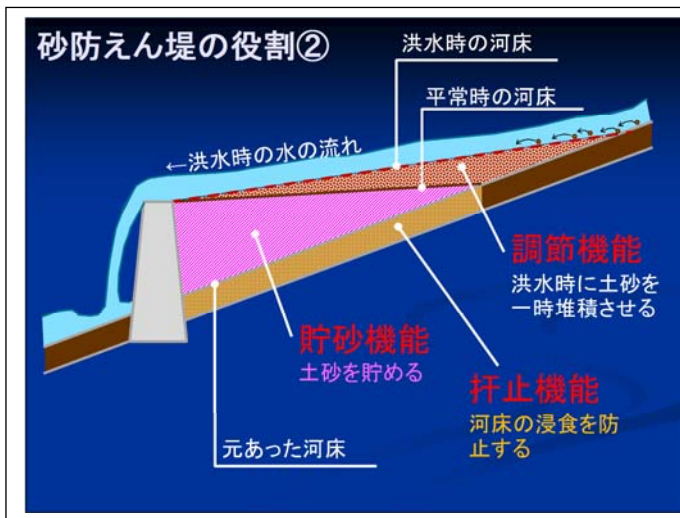
これまでの経緯について



●：委員からの意見等 (事)：事務局からの回答等

- 経緯の説明で「えん堤改良が効果的でない」としたのはどうか。
- (事)当時はスリット化だけでは土砂がたまらず流れてしまうため効果的ではないと判断しました。今回は総合的に考えていきたいと思っております。
- 経緯の説明で「河床低下が鈍化した」とのことだが、鈍化した理由は何か。
- (事)測量成果により、変化が少なかったため鈍化したと判断しました。

砂防ダムについて



- 砂防ダムは満砂状態で土砂は上流に向かって増え続けている。堆積が進行すると河床が上がるため、本来水が流れていなかった山腹に水流が当たって、新たに斜面が崩壊するような状況になっていく。
- ダムは土砂が堆積したままでいいのか。ダムの土砂は取るものなのか。
- (事)1号、2号砂防ダムは、満砂になることを前提に計画しており、満砂の状態でもえん堤の機能は果たしておりますので、土砂の掘削等は行っていませんが、魚道の維持管理のために、魚道にたまった土砂揚げ等は行っております。

農地浸食について



- 河床低下と農地浸食の因果関係があるなら十分に検討していただきたい。農業経営者としては、川が川として流れて氾濫しないこと、農地が削られないこと、そういう河川の行政を要望する。
- 農地の浸食には、さまざまな要因があり、河床低下対策だけでは抑えられない可能性もあるので、要因を突きとめる必要がある。
- 農地の縁が崩れかかっていること、砂蘭部橋の下流右岸側に住宅への崖が崩落寸前になっていることについて、事務局はどう考えているか。
- (事)河川管理施設が危険な状態にありましたら、応急的に土のうを置く等、維持管理の範囲で行う場合もありますが、抜本的な対策は、この委員会のご提言を受けた上で計画していきたいと考えております。
- 農地が削られてもどこに訴えていいのかわからない。
- 農地が削られても補償もされない。早急な対応を望む。

河床低下箇所について



- 2号砂防ダムをスリット化するにしても、一度に土砂が流出すると**漁業に影響が出る**ため、年次計画を立てて少しずつやってほしい。
- スリット化と共に、砂防えん堤の上にある大きい砂礫を少しずつ下流に補給すれば出水ごとに自然に流下し、堆積するのではないか。
- **早急にダムをスリット化**して土砂を供給すべき。大きな礫を2号ダム下流へ人為的に移動させて流す方法も考えられる。ダムのスリットは逆台形型で2回に分けて行う。
- 2009年にあった砂利が2010年のたった1回の出水で岩盤が露出し、瀬棚層が浸食してしまった。**1年遅れると、今の砂蘭部川においては災害が多発し、危険である**ため、今年度中、夏までに 実施してほしい。
- ダムの土砂を下流へ流すという意見については、露岩しているため、土砂は止まらず流れてしまう可能性がある。また、軟岩上を砂礫が移動すると浸食を助長する可能性もある。河床低下区間の軟岩を覆う方法を検討すべき。
- 浸食を抑えるには、**河床低下区間に土砂をためる施設、メカニズムをつくらなければ、スリット化しても一気に下流まで流出してしまう**。河床低下区間については効果的な対策をとりつつ上流から土砂を供給するという方法を考えていかなければならないだろう。
- 砂蘭部川のダムのように高さのあるダムのスリット化は**あまり事例がない**ため慎重に検討すべき。
- 砂礫で覆うのが無理であれば、**砂礫を止める方法を考える**。ただし、構造物を設置するとその下流が洗掘されるため、注意が必要。
- **瀬棚層の分布、厚さ、砂礫の厚さ**について調査を要望する。
- 若いころは、まだまだ大きな石がごろごろして、岩盤が露出していなかった。
- **目的を明確にして段階的対策**を行ってほしい。露岩の著しい区間に大きな石を置いてみるなど、まずやってみてはどうか。
- **土砂の需要と供給のバランス**が崩れた結果浸食が過度に進んだ。砂蘭部川だけでなく、遊楽部川との合流点、あるいは海への影響も含めてこれから土砂の管理、土砂の影響を評価していかなければいけない。
- 流域全体の**縦断勾配**を見なければ、正しい対策はできない。
- 第1回目の委員会で、方向性を今すぐ出すのではなくて、**じっくり検討して、いろんな角度から実施すべき**。砂利を流下させるとそれが海に流出すると様々な問題が出るため、どのような結果になるのか、検証しなければいけない。

自然環境について



その他

- 今まで北海道が行ってきたような部分的な工事ではなく、**川全体の状況を把握**した中で、河川工事等を考えていく必要がある。
- 遊楽部川と砂蘭部川の合流点は流速も遅く土砂が堆積している。洪水時には必ず**合流点付近に流木が堆積**する。
- 砂利が堆積し、上流から土砂を流下させたときに溢れる可能性がある場所を洗い出し、土のうを積み、堤防を造る等の対策を講じることで、上流から砂利を流すことも可能ではないか。
- 洪水時に築港に流れた**流木**で漁組は大変だった。**森林の対策**も必要である。

5. 今後の検討方針： **1. 早急に対策を** **2. 必要な調査を**

6. 次回委員会
- ・ 次回の検討委員会は現地見学を実施する。
 - ・ 林野庁等別分野の意見を聞く場合は、次回委員会以降、議論をしてから決定し、必要な手続きをとることとする。

- 原因を明らかにし、魚が棲めるような川にするためにはどうすればいいのかを、山林関係者も含めて検討する必要がある。
- 2号砂防ダムだけでなく、1号砂防ダムにも砂利が堆積し、流出していないということも総合的に検討して、魚が安心して棲める川にしていきたい。
- **環境調査について、回数が少ない**。調査は**四季を通じて行うことが望ましい**。データを積み重ねて判断した方がよい。
- **サケの遡上調査**については、むしろ砂蘭部川と遊楽部川の合流点あるいは直下の遊楽部川本流の河川環境の方が産卵場所として重要である。砂蘭部川から流出した土砂がそこに堆積した結果、特に礫の供給がなくて、砂あるいは土砂の供給によって産卵場所が埋まってしまったのではないかと。
- 今後の方向性はもう少し**データや科学的知見が得られてから判断すべき**で、今すぐに方向性を決めるとするのは危険ではないか。
- 遊楽部川と砂蘭部川合流点から下流、河口近くまでわき水が豊富で、一帯でサケが産卵をやっていたが、その資源がほとんど枯れてきている。**野生サケがいなくなった**といえる。その原因は、泥水であり、その発生原因は河床が低下し、河岸崩れて、そこから大量の土砂が出ることである。
- 砂蘭部川にキュウリウオがいなくなった。**キュウリウオが遡れる川にしてほしい**。
- 平成22年の出水以降、露盤化して、岩、礫がなくなり、ヒゲナガカワトビケラとかシマトビケラもいなくなった。
- 2号砂防ダムから1号砂防ダムの区間は深い淵がなくなっている。いわゆる釣りのポイントがなくなっている。

事務局： 渡島総合振興局 函館建設管理部
 事業室 治水課 TEL0138-47-9641、9643
 八雲出張所 TEL0137-63-3111